



# JFRL 情報宅配

## \* 農林水産省 \* (<http://www.maff.go.jp/>)

### 1. [植物防疫法施行規則の一部改正について] (令和 4 年 10 月 28 日)

植物防疫法の一部改正に伴い、「植物防疫法施行規則の一部を改正する省令」が公示され、改正植物防疫法施行規則が令和 5 年 4 月 1 日から施行されます。

[https://www.maff.go.jp/pps/shoreikaisei20220930\\_information.html](https://www.maff.go.jp/pps/shoreikaisei20220930_information.html)

植物防疫法の改正について <https://www.maff.go.jp/j/syouan/shokukaisei.html>

### 2. [農林水産省が進めるオープンイノベーション! 「知」の集積と活用の場®ポスターセッション 2022 を開催します] (令和 4 年 11 月 9 日 農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/221109.html>

## \* 厚生労働省 \* (<https://www.mhlw.go.jp>)

### 1. [食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について] (令和 4 年 10 月 26 日 生食発 1026 第 1 号)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/zanryu/sekoutsuchi.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/zanryu/sekoutsuchi.html)

### 2. [食品に関するリスクコミュニケーション「食品中の放射性物質のこれからを考える」を開催します] (令和 4 年 10 月 28 日 厚生労働省 医薬・生活衛生局 生活衛生・食品安全企画課)

厚生労働省は、消費者庁、内閣府食品安全委員会、農林水産省、経済産業省と連携して、食品中の放射性物質に関する意見交換会「食品中の放射性物質のこれからを考える」を開催します。11 月 28 日(月)に東京都、12 月 14 日(水)に大阪府で開催し、2 会場とオンライン配信の参加者を募集します。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/1111212865\\_00032.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/1111212865_00032.html)

### 3. [令和 4 年 11 月 14 日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会(オンライン会議)資料] [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_28884.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28884.html)

### 4. [令和 4 年 11 月 14 日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会新開発食品調査部会新開発食品評価調査会(オンライン会議)資料] [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_28986.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28986.html)

議題 いわゆる「健康食品」との関連が疑われると報告がなされた健康被害情報の取扱いについて

## \* 消費者庁 \* (<https://www.caa.go.jp/>)

### 1. [「食品表示基準について」の一部改正について] (令和 4 年 10 月 26 日 消食表第 447 号)

・別添 添加物 1-1 に「L-酒石酸カルシウム」が新設

・別添 アレルゲン関係 特定原材料等の表示を省略するために必要な分析方法の参照先の変更等

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/food\\_labeling\\_act/#qa](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/#qa)

新旧対照表

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/food\\_labeling\\_act/assets/food\\_labeling\\_cms204\\_221026\\_06.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/assets/food_labeling_cms204_221026_06.pdf)

### 2. [食品表示の適正化に向けた取組について] (2022 年 11 月 17 日)

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/030939/>

## \* 農林水産消費安全技術センター \* (<http://www.famic.go.jp/>)

### 1. [「飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令等」の一部改正について] (令和 4 年 10 月 17 日 4 消安第 3154 号)

[http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/r4\\_3154.html](http://www.famic.go.jp/ffis/feed/tuti/r4_3154.html)

## \* 今月のトピックス \*

### [食品表示基準 食物繊維分析方法の追加について]

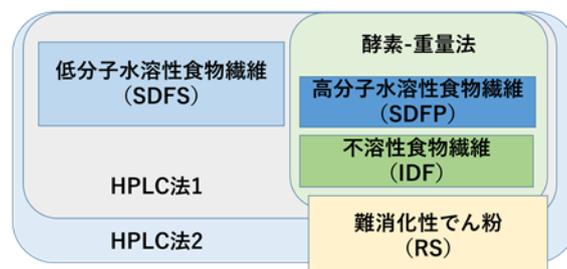
2022 年 8 月 30 日付で「食品表示基準について」(平成 27 年 3 月 30 日消食表第 139 号)の一部が改正され、食物繊維の分析方法が追加されました。今回は、その追加に伴い、お客様からよくいただくお

問い合わせをまとめました。

Q1：酵素-HPLC法1（以下、「HPLC法1」とする）と酵素-HPLC法2（以下、「HPLC法2」とする）の違いは何ですか？

A1：今回の改訂により食物繊維の分析方法は、酵素-重量法、HPLC法1及びHPLC法2となりました。HPLC法1は従前の酵素-HPLC法です。HPLC法2は、日本食品標準成分表2020年版（八訂、以下「成分表」とする）におけるAOAC2011.25法に相当します。HPLC法2は、HPLC法1に比べ、より広い範囲のRSが測定可能です。また、HPLC法2では食物繊維の内訳、つまりIDF、SDFP及びSDFSを個別に定量できます。弊財団はこれらの合算値（総量）も報告します。食物繊維と分析方法のイメージは図-1をご参照ください。

図-1 食物繊維と分析方法のイメージ



Q2：HPLC法1とHPLC法2を選択する目安はありますか？

A2：それぞれの分析方法の特徴を踏まえてお選びください。例えば、RSの含有量が多い食品である（RSも食物繊維として定量したい）、食物繊維の個別値を知りたい、などの場合はHPLC法2の選択をご検討ください。

Q3：HPLC法1とHPLC法2ではどれくらい差が出ますか？どちらが高く定量される等の傾向はありますか？

A3：検体種により傾向は異なりますので一概には言えません。どちらか迷われる場合はご相談ください。

Q4：RSを含む食品は、HPLC法2を選択しないといけないのでしょうか？

A4：RSが入っているから必ずHPLC法2を選択しないといけないということはありません。お客様の目的やご希望により、酵素-重量法、HPLC法1及びHPLC法2の中からお選びください。

Q5：HPLC法2の結果は表示に使えますか？

A5：使えません。エネルギーはHPLC法2の総量（IDF、SDFP、SDFSの合算値）に係数を乗じて算出します（酵素-重量法及びHPLC法1と同じです）。

Q6：RSは、HPLC法2のどの画分（IDF、SDFP、SDFS）で測定されますか？

A6：IDF画分に測定されると言われています。IDF画分に測定されるのはRSだけとは限らず、IDF画分中のRSの割合は分かりません。

Q7：RSはRS1～4に分類できるそうですが、HPLC法2ではRSを分類別に定量することはできますか？

A7：RS1～4を分別定量することはできません。

Q8：HPLC法2と成分表のAOAC2011.25法に違いはあるのでしょうか？

A8：出典はいずれもAOAC2011.25ですので、ほぼ同じです。成分表では、前処理（凍結乾燥）や脱脂の方法などに指定があります。

食物繊維に関連するJFRLニュースもご参照ください。

・Vol.7 No.19 目的に応じた食物繊維分析法の選択

[https://www.jfrl.or.jp/storage/file/news\\_vol7\\_no19.pdf](https://www.jfrl.or.jp/storage/file/news_vol7_no19.pdf)

・Vol.7 No.8 日本食品標準成分表 2020 年版(八訂)

[https://www.jfrl.or.jp/storage/file/news\\_vol7\\_no8.pdf](https://www.jfrl.or.jp/storage/file/news_vol7_no8.pdf)

食物繊維の分析法選択にお悩みやお困りの点がございましたら、ご遠慮なくご相談ください。



★お知らせ★ ポスター発表します！

12月6日～11日 第22回国際栄養学会議、場所：東京国際フォーラム

Development of LC-MS/MS method for determination of total choline in various foods using acid hydrolysis（酸加水分解を用いた食品中の総コリン定量のためのLC-MS/MS法の開発）

彩都研究所 研究開発部 技術イノベーションチーム 平川祥成

内容についての問合せ、配信アドレスの変更・追加配信希望・配信停止はHPのお問合せよりお願いいたします。<https://www.jfrl.or.jp/contact/create>